野菜花き 10 月上旬巡回調査結果の概要について

【東北信】　巡回日　10 月 13 日、14 日

1　トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫が概ね終了していた。病害では、輪紋病のほか、疫病の発生がみられ（図１）、多雨により病勢が急激に拡大していた。虫害では、オオタバコガの寄生が継続的にみられた。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病の発生が多く、全調査株に発生がみられたほか、葉かび病も前回調査より発生が拡大していた。虫害では、前回調査同様、ハモグリバエ類の加害が多く、オンシツコナジラミの寄生がわずかにみられた。



図１　トマトの疫病（小諸市）

2　きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病の発生が多く、全調査株に発生がみられた。また、前回調査に続き、べと病、褐斑病の発生もみられた。虫害では、オンシツコナジラミの寄生がみられたが、少発生であった。

中野市の巡回ほ場は、収穫が終了していた。調査株は各種病害の発生により、立ち枯れ状態となっていた。

3　いちご

南牧村の巡回ほ場は、着果期であった。アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生花率は前回調査よりも低下していた。病害の発生はみられなかった。

4　キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では株腐病（少発生）（図２）がみられた。虫害ではチョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は低かった。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、黒腐病、黒斑細菌病（いずれも少発生）がみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は低かった。

軽井沢町の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では株腐病がわずかにみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害がみられ、被害株率はやや多かった。。

長野市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、黒斑病、黒腐病、黒斑細菌病（いずれも少発生）がみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害がみられ、被害株率は低かった。



図２　キャベツの株腐病（小諸市）

5　ブロッコリー

御代田町の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、外葉に黒すす病の発生がわずかにみられたが、花蕾への発生はなかった。虫害では、チョウ目害虫の食害がわずかにみられた。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、外葉に黒腐病、黒斑細菌病（図３）の発生が部分的にみられたが、花蕾への影響はなかった。虫害では、チョウ目害虫の食害がわずかにみられた。



図３　ブロッコリーの黒斑細菌病（南牧村）

6　はくさい

上田市の巡回ほ場は、結球期であった。虫害では、チョウ目害虫の被害株がみられたが、被害株率は低かった。病害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害ではピシウム腐敗病がわずかにみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害株がみられたが、被害株率は低かった。

小海町の巡回ほ場は、収穫期であった。病害ではべと病、ウイルス症状株（いずれも少発生）がみられた。チョウ目害虫のほか、ナメクジによる食害がわずかにみられた（図４）。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、黒斑病、白斑病（図５）、べと病（いずれも少発生）がみられたほか、黒斑細菌病がやや多かった（図６）。虫害では、チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は低かった。



図４　はくさいを食害するナメクジ類（小海町）



図５　はくさいの白斑病（南牧村）



図６　はくさいの黒斑細菌病（南牧村）

7　レタス

上田市、小諸市、御代田町、南牧村の巡回ほ場は、いずれも収穫期であった。全般的に、すそ枯病の発生がみられたほか（図７）、上田市、小諸市、御代田町のほ場では斑点細菌病の発生が拡大していた（図８）。

虫害では、上田市のほ場でナメクジ類による食害がみられた。



図７　レタスのすそ枯病（南牧村）



図８　レタスの斑点細菌病（御代田町）

8　アスパラガス

小諸市（露地栽培）、小布施町（雨よけ栽培）、飯山市（露地栽培）の巡回ほ場は、いずれも立茎繁茂期であった。

病害では、いずれのほ場でも茎枯病の発生がみられ、前回調査よりも病勢は進展し、発病株率は高くなり、多発ほ場がみられた（図９）。また、斑点病、褐斑病（いずれも少発生）がみられた。

虫害では、アザミウマ類の寄生がみられたが、前回調査よりも減少していた。そのほか、飯山市のほ場では、オオタバコガの寄生がみられた。



図９　アスパラガス茎枯病の多発ほ場（飯山市）

9　ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。虫害では、前回調査に続き、ナガイモコガの食害がみられた。病害の発生はみられなかった。

【中南信】　巡回日　10月５日、６日、７日、８日

1　トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。

2　きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫が終了していた。

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。前回に引き続き、花にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、病害では、葉にうどんこ病およびべと病（いずれも中発生）の発生がみられ、密度が増加していた。

3　キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、結球期であった。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、収穫期であった。結球部と外葉にオオタバコガの寄生および食害がみられた。病害では、一部に軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。

茅野市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害虫の発生はみられなかった。

4　はくさい

朝日村の巡回ほ場は、結球期（収穫終了によりほ場変更）であった。結球部と外葉にオオタバコガの寄生および食害がみられた。病害では、一部に軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。

木祖村の巡回ほ場は、結球期であった。病害虫の発生はみられなかった。

5　レタス

塩尻市の巡回ほ場は、生育期（９～10 葉期）であった。前回に引き続き、外葉にすそ枯病（中発生）の発生がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、結球期であった。こちらも前回同様、外葉に斑点細菌病（中発生）の発生がみられた。

6　セルリー

松本市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫期であった。病害虫の発生はみられなかった。

7　アスパラガス

豊丘村の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、茎葉繁茂期であった。擬葉にアザミウマ類およびアブラムシ類（少発生、中発生）の寄生がみられたほか、擬葉および若茎のハダニ類（多発生）は依然として高密度で推移していた。病害では、茎枯病（中発生）の発生がみられ、前回と比較して増加していた。

飯島町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、茎葉繁茂期であった。擬葉のアザミウマ類（少発生）は低密度になっていたが、ハダニ類（中発生）は再び増加傾向に転じていた。病害では、茎枯病（中発生）が続けて発生しており、発病株率は同程度であったものの、前回より株の黄変が進行していた。

松川村の巡回ほ場（露地栽培）は、茎葉繁茂期であった。擬葉にアザミウマ類（多発生）の寄生がみられたが、前回より発生は落ち着いていた。一方、病害では、長雨等の影響により、ほ場全体に斑点病（多発生）が蔓延し、株の黄変も進んでいた（図 10）。



図 10　アスパラガス斑点病
（松川村）

8　ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉 7.0～8.0 葉であった。

葉に黒斑病（多発生）の発生がみられ、発病株率は同程度であったものの、前回より症状が拡大していた。

虫害については、葉にアザミウマ類およびネギハモグリバエ幼虫（多発生、中発生）の寄生がみられ、特に、ネギハモグリバエB系統の潜孔による葉の白化が目立った（図11、12）。

山形村の巡回ほ場は、本葉9.0～10.0葉であった。前回同様、葉にアザミウマ類（多発生）およびネギハモグリバエ幼虫（少発生）の寄生がみられたが、密度は微減傾向であった。病害では、黒斑病（多発生）の発生がみられたが、こちらも前回より症状は落ち着いていた。



図11　ネギハモグリバエB系統による食害（南箕輪村）



図12　従来のA系統による食害（南箕輪村）

9　ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。病害虫の発生はみられなかった。

10　きく

富士見町の巡回ほ場は、収穫期（草丈約112cm）であった。病害虫の発生はみられなかった。